千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会だより

広報紙
第 22 号
令和３年9月30日発行
【発行元】
千葉県障害者就業･生活支援センター
連絡協議会 会長　　藤尾 健二

ナカポツセンターの新たなる挑戦！

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、昨年 11 月に検討会がスタートした「障害者雇用・福祉連携強化プロジェクト」の報告書が令和 3 年 6 月に公表されました。報告書内には「障害者就業・生活支援センター」の役割に関する記述が随所にみられ、我々が今後目指すべき方向性が示されています。まだ現段階では明確なものではありませんが、いくつかのキーワードが挙げられています。

①基幹型－就労支援におけるスーパーバイズ機能。より困難なケースへの対応。
②ハブ機能（ネットワーク）－地域ネットワークの構築・維持
③セーフティネット（就労定着）―「就労定着支援事業」対象外の方への支援
④中立性－障害福祉サービスとは分離した役割
⑤事業の安定化－雇用保険２事業での運営の限界

ナカポツセンター事業への期待の大きさ、そして安定した事業継続への課題が併記されています。令和 3 年度の「障害者就業・生活支援センター事業」においては、全国で 4.7 億円減額されました。（令和 2 年度比）これまでも、予算の執行率が課題として挙げられてきましたが、新型コロナウイルス対策で雇用保険がひっ迫するなか、初めての大規模な減額になります。事業の必要性・重要性について共有されているなかでの減額になり、我々のモチベーション、事業運営そのものに大きな影響を与えています。現在の状況はすぐに改善されるとは考えにくく、先日公表された令和 4 年度の予算においては、増設される２センター分の増額にとどまり、各センターへの増額は含まれていません。センター職員のスキルアップや、より専門性の高い人材確保が求められる中、各センターにおいて困難な対応を迫られる状況です。しかしながら、国難とも言うべき現在の状況に対しては、手立ても限られていると考えます。この状況を乗り切った後に、長期的に求められる役割に応え得る安定した事業となるよう、我々も努めなければならないのではないでしょうか。また、先に挙げたキーワードの「②ハブ機能」については、これまでの取組みを更に強固なものとし、地域における支援体制の構築・維持に努めなければならないと考えます。
千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会は、千葉県における「ナカポツセンターの役割」について、県内 16 センター間での協議および関係機関の皆様との協議を通じて、千葉県のより良い就業支援体制の構築に寄与するよう取り組んでいきます。

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会　会長　藤尾 健二

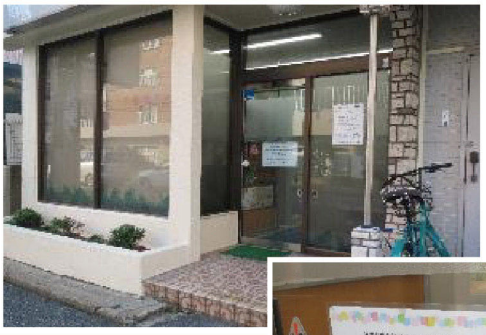
連絡調整会議

「就労支援の本質とそれぞれの立ち位置を確認しよう」をテーマに連絡調整会議パネルディスカッションが開催されました。
登壇者は、卒業生を社会に送り出す立場から小垣圭氏（千葉市立養護学校進路指導主事）、雇用する側の立場から崔岡由紀氏（青山商事株式会社千葉センターサブマネージャー）、支援者の立場からは私、関幸太郎（障害者就業・生活支援センター就職するなら明朗塾）、以上３名が務めました。
小垣氏からは、進路決定への流れ、産業現場等の実習について、卒業後の自立に向けた支援体制を、崔岡氏からは、千葉センターにおいて障害のある方を「障害者」ではなく、「サポートメンバー」と呼び、「サポートチーム」の所属として各業務に従事、各チームに職業生活相談員を配置し支援している旨の説明をそれぞれいただきました。
私からは、就職困難障害者への就労支援、障害者雇用におけるキャリア形成のニーズの対応等現状で課題となる支援について話しました。就労支援の本質といえるテーマに沿って、それぞれの立場から各人が思うこと、課題、提言等意見交換が行われました。さらに、対面で会場に３０名、WEB で１５名の参加者を交えた活発な意見交換が行われました。

就職するなら明朗塾　関 幸太郎

センター紹介　～いちされん～

『歴史と伝統の街～市川～』



いちされんがある市川市は、都営新宿線、総武線、京成線の３路線が通っており江戸川を境に東京都に隣接しているため都心へのアクセスが良く、近年ベッドタウンとして発展してきました。その一方で歴史として残っている数多くの名所や神社仏閣、古くから伝わる伝統が多く残されている街でもあります。永井荷風や井上ひさし他、名立たる文豪たちも市川の歴史や街並みを愛し住んでいたと言われており、文豪の街としても有名です。

そして、“チーバくん”をデザインされたイラストレーターの坂崎千春さんは市川市ご出身です。桜の名所も多く、春はお花見、夏は梨狩りと四季折々の自然と触れ合うことが出来るのも市川の魅力の一つです。

『いちされんの歴史と伝統』

センター名である“いちされん”と言う名称の由来は、市川市地域作業所連絡会の略です。平成８年、市内の作業所が手を取り合い相互理解を深め、障害者の福祉向上を図る事を目的に連絡会が発足しました。平成１２年、作業所で日々頑張っている障害者が一人でも多く社会で活躍出来る事を願い、市川市障がい者就労支援センター“アクセス”が設立され、就労支援の先駆けとして活動してきました。社会的にも信頼のおける組織化した団体となるべく、平成１８年に NPO 法人として認証を受け、会の名称も「いちされん」と改め新しくスタートしました。平成２３年には、障害者就業・生活支援センター事業の受託を受け、市川市だけでなく浦安市も圏域となり、更に手をつなぐ輪が広がりました。

いちされんの強みは、これまでの歴史と伝統から培ってきた地域との“つながり”“縁”、そこから生まれる“笑い（笑顔）”です。これからも“つながり･縁･笑い(笑顔)”を大切にたくさんの方々に愛される支援センターでありたいと職員一同願っています。

いちされん　　小島 弘江

特別支援学校進路に関わる先生方向けセミナーを終えて

８月 26 日（木）特別支援学校とのワーキング主催による初開催セミナー「障害者雇用の根本を考える」～一度整理しよう　障害者雇用ビジネス～をホテルポートプラザちばにて開催しました。当日会場への来場と Zoom による WEB 参加合計 65 名の先生方をお迎えすることができました。

セミナーには、毎日新聞デジタル報道センター山田様とふる里学舎地域生活支援センター松橋センター長に御登壇いただき、約１時間にわたり障害者雇用ビジネスが始まった当時の様子から、不安定な現状、危うさ、このまま障害者雇用ビジネスが増え続けた場合の未来予測等、今後の卒業生の進路としてどうなのかを先生方と一緒に考える貴重な時間になりました。

アンケートの回答からは、「卒後の進路について、関係機関と更なる連携の必要性を感じた。」「皆が納得のいく本当の農福連携システムを考えたい。」「雇用率優先の現代において障害者雇用準備が不足している企業の助け舟となっている。準備不足企業への教育活動、気軽に相談できるシステムを構築すべき。」といった意見がよせられております。

今回セミナー開催に向け御登壇いただきました山田様、アンケート等様々な面でご協力いただきました特別支援学校の先生方には感謝申し上げます。

来年度以降も特別支援学校の先生方とテーマとなる事がございましたらセミナー等を開催したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

千葉障害者キャリアセンター　向日 宏一

センター紹介　～山武ブリオ～

山武ブリオは、平成21年4月に「障害者就業・生活支援センターブリオ」として事業を開始し、当初は山武圏域・長生圏域を担当していました。平成23年4月より山武ブリオ・長生ブリオとして圏域を分け、山武ブリオは山武圏域（大網白里市、東金市、山武市、九十九里町、横芝光町、芝山町）を担当しております。今年3月に事務所を移転し、今年度から新たなメンバーも加わり、心機一転活動しております。

母体である社会福祉法人ワーナーホームは、約40年前に精神障害のある方たちの働く場として「東葛工芸センター」を開設したことから始まり、入所施設や通所施設・相談系事業等、精神障害のある方たちの生活と就労を支え、歩んでまいりました。このような経過もあり、センター登録者の内訳は昨年度末時点で、精神障害のある方が43.6%、知的障害の方が40.9%、身体障害の方が14.1%、その他1.4%と、精神障害の方の割合が一番高くなっております。

山武ブリオ　鈴木 千春

移転先はレトロな玄関の2階建て一軒家です。山武ブリオの事務所は1階にあります。2階は同法人が運営する多機能型就労支援事業所ワークショップしらさとが使用しています。

感染症対策のため、来所時はマスクの着用をお願いしております。
また入室前のアルコール消毒または手洗いと、検温もお願いしております。

センター長が、大の天敵であるトカゲや虫と格闘しながら、自ら手塩にかけて世話をしている季節ごとの花々がお出迎えします。

自然に囲まれた明るい面談室でお話をお伺いします。

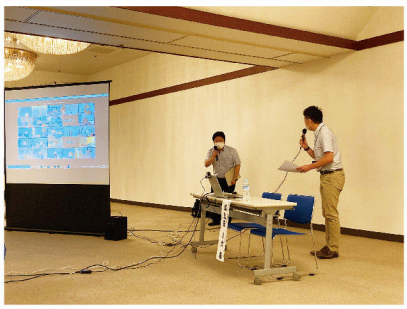
令和3年度　第1回スタッフ研修

7月21日（水）にオンラインと会場でのハイブリットにて開催しました。今回は、『自己決定支援について～障害がある方の意思の尊重を考える～』をテーマに、中核地域生活支援センターがじゅまるのセンター長である朝比奈ミカ氏を講師にお招きし、講義していただきました。当日は、16センター58名のスタッフが参加をしました（会場25名、オンライン28名）。

講義後は、会場とオンラインのそれぞれでグループワークを行い、講義の感想やこれまで経験したケース等について意見交換をしました。参加者からは「これまでの自分の支援を振り返る良い機会になった」「支援者はあくまでご本人のサポートをする立場であり、最終的な決断を下すのはご本人であることはいつまでも変わらない」などの感想を頂きました。

障害のある方と企業の橋渡しをする私たちにとって、どのように本人たちへ伝え、決断したら良いのか迷う場面があります。時にはつらい選択をする場面もあります。その方にとって次へ活かすためにどのように伝え、どれだけの選択肢や方法を提示できるかが自己決定支援に必要であることを学ぶ研修となりました。

東総就業センター　福島 美果



千葉県障害者就業・生活支援センター一覧

野田圏域 はーとふる
〒278-8550
野田市鶴奉 7-1 野田市役所 1F
TEL 04-7124-0124

市川圏域 いちされん
〒272-0023
市川市南八幡 5-17-11（1F）
TEL 047-300-8630

船橋圏域 大久保学園
〒274-0053
船橋市豊富町 690-13
TEL 047-457-7380

習志野圏域 あかね園
〒275-0024
習志野市茜浜 3-4-6 京葉測量(株) 内
TEL 047-452-2718

千葉圏域 千葉障害者キャリアセンター
〒261-0002
千葉市美浜区新港 43
TEL 043-204-2385

市原圏域 ふる里学舎地域生活支援センター
〒290-0265
市原市今富 1110-1
TEL 0436-36-7762

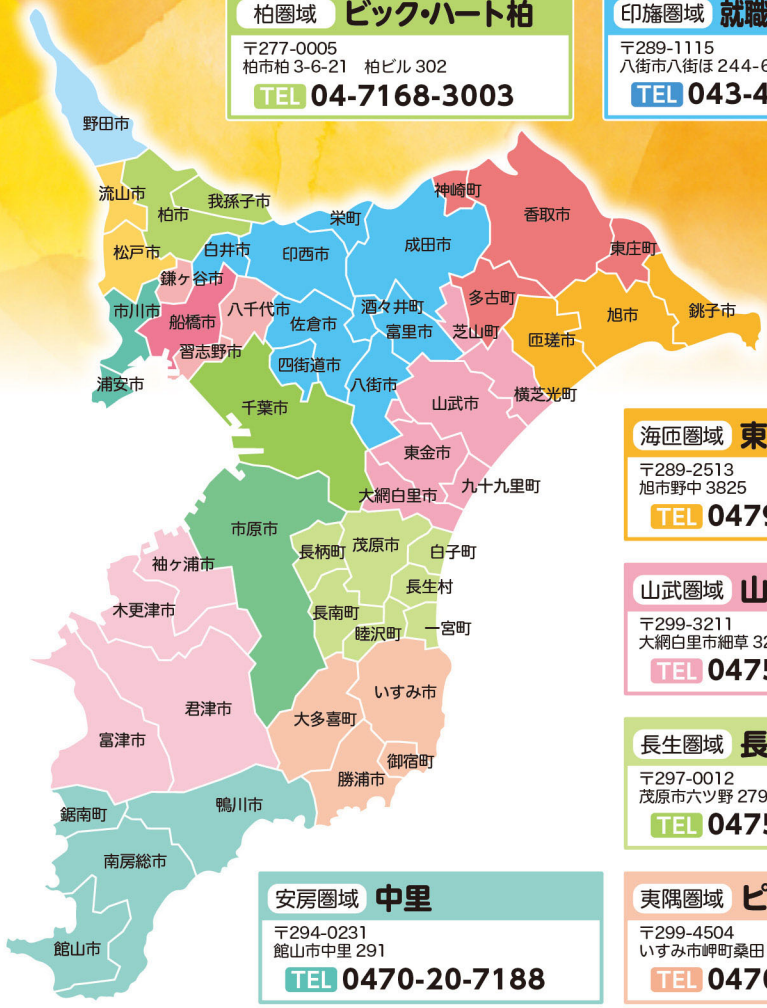
君津圏域 エール
〒292-0067
木更津市中央 1-16-12 サンライズ中央 1F
TEL 0438-42-1201

松戸圏域 ビック・ハート松戸
〒271-0047
松戸市西馬橋幸町 117 ロザール松戸 109 号室
TEL 047-343-8855

柏圏域 ビック・ハート柏
〒277-0005
柏市柏 3-6-21　柏ビル 302
TEL 04-7168-3003

香取圏域 香取就業センター
〒287-0101
香取市高萩 1100-2 高萩福祉センター内
TEL 0478-79-6923

印旛圏域 就職するなら明朗塾
〒289-1115
八街市八街ほ 244-62
TEL 043-488-5499



海匝圏域 東総就業センター
〒289-2513
旭市野中 3825
TEL 0479-60-0211

山武圏域 山武ブリオ
〒299-3211
大網白里市細草 3215-19
TEL 0475-71-3111

長生圏域 長生ブリオ
〒297-0012
茂原市六ツ野 2796-40
TEL 0475-44-4646

安房圏域 中里
〒294-0231
館山市中里 291
TEL 0470-20-7188

夷隅圏域 ピア宮敷
〒299-4504
いすみ市岬町桑田 341-1
TEL 047087-5201

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会

事務局 TEL 0436-36-7762　FAX 0436-26-7090

〒292-0067　市原市今富 1110-1　障害者就業・生活支援センター／ふる里学舎地域生活支援センター
E-mail： fg.shien@yukeikai.jp　URL： http://www.chiba-centernw.com/

千葉県障害者就業・
生活支援センター連絡協議会

西村（いちされん）さんのつぶやき

コロナウイルスが流行り始め、多くの事を我慢しなければならず、思うように動けないことへ苛立ちすら感じるように…。

先日、多少コロナが落ち着いた際、地域の関係機関を集めて情報交換会を行ったところ、かなりの参加者があり「あ～みんな集まって話したかったんだな…」と改めて感じた。「また是非やって欲しい」とまで言われた矢先に、すぐ緊急事態宣言が発令。それまでは、オンライン会議などを繰り返し、淡々とした会議となっていたため面白味もなかったのだろう。移動もなく場所も取らないため、最初のうちは、どこからでも参加できるし便利だな、とすら思っていたものの、始めてみると皆さんの表情が見えにくく、発言もしづらく、恐らく全体的な意見の回収もできずに終わっているのだと思う。やはり皆さんと顔を突き合わせて面と向かって話し合うことに意味があるのだと再認識した。「ウィズコロナ」まだまだこの状態が続くであろうという中で「いかにして他の機関と連携をとっていくのか」「情報をうまく伝えていくのか」「どのようなツールが使えるのか」悩みは尽きない。

早く以前の状態に戻らないかな～普通を忘れそうだ…

編集後記・広報部会より

今年度１回目の広報紙発刊となりました。東京オリンピック・パラリンピックは、自粛生活に疲れている私たちに多くの感動と勇気を届けてくれました。またボランティアとして支えて下さった方達の活動も、多くの選手から発信されていました。

感動や勇気、そして「人の温かさ」を感じられたこの夏を過ごし、前を向いて歩んでいく元気をたくさんもらいました。暗い気持ちになりがちですが、前を向いて一歩ずつ歩んでいく、その力を与えてくれる場面や時間を大切に日々生活していけば、きっと明るい未来が待っていますよね。

広報部会長　金木 隆裕